

平成 24 年度

自己点検・評価報告書

学校法人 南 京 都 学 園

京 都 動 物 専 門 学 校

自己点検・評価委員会

平成 25 年 5 月 1 日

『学園の教育理念』

「人間の能力は生まれつきのものではなく、
その人の努力によって開発され、無限に伸ばされる」

『学園訓』

「愛・信・敬」

1. 他人を愛し、他人を信頼し、他人を尊敬する、人間に私はなりたい。
2. 他人から愛され、他人から信頼され、他人から尊敬される人間に私はなりたい。

『学園の教育目的』

愛情と信頼と尊敬に充ちた教育を通じて、個性を伸ばし、能力を開発し、自立と向上心ならびに互助協力の精神を培わせ、徳・体・智の調和のとれた人格の形成を図り、国家及び社会に貢献できる人間を育成することを目指している。

『京都動物専門学校』の教育目的』

SKILL&LOVE『確かな技術と人や動物に対する愛情』また『「好き」だけじゃできない…だから、京都動物へ。』を合言葉に動物系とビジネス系の二本柱を教育の中心に置き、これからの動物業界の未来を担う、人材の育成を目指している。今までに無い、新しい動物系の学校としてのあり方を常に創造し挑戦していく。

【評価の判定】	適切 4	ほぼ適切 3	やや不適切 2	不適切 1
---------	------	--------	---------	-------

[1] 教育理念・目標

評価項目	評価
・学生等に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか。	4
・教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか。	4
・学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか。	4
・各修業期間における教育目的・目標及び教育計画が文書化され、提示されているか。	3

(課題)

- ・教育計画について、日々の社会の変化に対応できるよう、情報収集を行う。

(今後の改善方策)

- ・常に動物病院および動物業界と連携を取りながら、本校での学業が学生にとって素晴らしい知識となるよう、改善し対策をとる。

(特記事項)

- ・教育理念・学園訓・教育の目的は明確に定められ、学生に対して「学生便覧」により周知徹底を図っている。
- ・教職員に対して、学園全体会議を年度初めと年度末に行い、資料を配布の上、周知徹底されている。
- ・学外に対して、本校の学校案内・募集要項・HP等で公表し、本学園が教育基本法、学校教育法及び専修学

校設置基準に従った学校教育を行っていることを提示している。

- ・本学園において「5か年中・長期計画」を立て、着々とその計画が実現するよう努力している。また、本校において「事業計画」を立て、技術を身につけ実践的に活躍できる人材の育成を図るとともに、一人ひとりの学生の能力を把握し個々に見合った学習方法を取り入れることで、すべての人間が平等に学べる人間育成を行っている。
- ・学外の方に対し、教育目的・目標、及び教育計画を文書化して、学校パンフレットや募集要項、ホームページにより公表している。

[2] 学校運営

評価項目	評価
・運営方針は定められているか。	4
・事業計画は定められているか。	4
・職務分掌による組織の運営が機能的に働いているか。	3
・意思決定システムによる学校運営がなされているか。	4
・施設管理体制が整っているか。	2
・安全管理体制は整っているか。	3
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3

(課題)

- ・学校組織を成り立たせるため、今後の事も鑑み後進の指導に当たらなければならない。
- ・資産管理台帳を見直す。また、校舎等を再点検して該当箇所の修理をする。
- ・校内外の滑りやすい個所や照明の暗い場所を改善する必要がある。
- ・重要書類等の償却期間を規程化し、確立したい。

(今後の改善方策)

- ・事務・教務・入試・進路との「報連相」を強化し、連携を図る。
- ・校具・教具等の備品等を調査し、資産管理台帳を早く完成させる。校内外の環境美化に努める。
- ・学校生活が楽しくなるよう、校内外を改善していく。
- ・古い重要書類等が増えているため、「重要書類保管規程（償却期間）」に則って処理していく。

(特記事項)

- ・専修学校専門課程における教育目的・目標に従い運営方針は定められ、方針に則り業務が執行されている。
- ・社会の動向及び環境の変化等に即対応・適用できるよう事業計画がなされている。
- ・本校では毎月職員会議および学科会議を開催し、教職員同士の意思疎通を図っている。
- ・防災・防犯・非常時対策においては組織化し、学生の安全を図っている。
- ・本校では教員一人に1台のコンピュータを設置し、データの共有を行うことで業務の効率化を図っている。また学生の個人情報等の保護も行っている。

[3] 教育活動

[カリキュラム・成績の評価]

評価項目	評価
・育成人材像は、各学科に対応する人材ニーズに向け正しく方向付けられているか。	4

・カリキュラムは、業界の外部関係者を参入させ、社会のニーズに合致した内容が設定されているか。	4
・カリキュラムは、体系的に編成されているか。	4
・学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けがなされているか。	3
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4
・人材育成のための要件を備えた教員を確保しているか。	4
・資格取得の指導体制は整っているか。	3
・生涯学習について積極的に取り組んでいるか。	2

(課題)

- ・平成 26 年度から「動物看護師コース」を新たに設置する。そのため、学科目標をしっかりと立て、その目標に到達できない学生に対してのフォローも考えなければならない。
- ・生涯学習については、現段階では授業のコマ数の関係上、授業科目として設定できていない。

(今後の改善方策)

- ・「動物看護師統一認定試験」の資格取得を目標とするが、目標達成困難な学生に対しては、夏季・冬季・放課後等を利用した授業に取り組む。
- ・生涯学習については、平成 26 年度からの「動物看護師コース」が整い次第、取り組む。

(特記事項)

- ・各担当教科が年間のカリキュラムを作成し詳細なシラバスを作成している。また、そのカリキュラムおよびシラバスを全教職員が共有することで、不足を補い、学生にとってより良い知識が得られるようその都度確認をしている。
- ・カリキュラムの作成に当たり、「教育課程編成委員会」を設置し、本校での学習後、即社会に貢献できる体制を整えている。
- ・カリキュラムは、各学科の目標達成に向け、教務課を中心として現場の教師の意見および全教職員すべての意見を取り入れ、必要かつ十分な体制を整えている。
- ・学生の成績の評価および単位認定の基準は、本校「学則」「便覧」において定められており、それに従って実務を実行している。また、学生に対しても「学生便覧」を配布し、公表している。
- ・本校の教員に対しては、動物病院および動物関連業者と連携を取り、的確な教員を配置している。
- ・本校に入学した以上は、すべての学生がより多くの資格を取得し卒業できるよう、教員による指導体制が整えられている。

[授業の評価]

評価項目	評価
・自己点検・評価を行うため、体制の組織化がされているか。	4
・学生によるアンケート等による授業評価・担任評価を定期的に行っているか。	4
・授業評価・担任評価の結果に基づく教員面接を実施しているか。	2
・授業評価・担任評価の結果に基づく教員報告書・改善計画書等が作成されているか。	2
・授業改善のための組織的取り組みが、行われているか。	3

(課題)

- ・面接までには至っていないが、指導はしている。
- ・教員の報告書、また改善計画書等も実施していない。

(今後の改善方策)

- ・今後、文書の様式を作成し実行する。
- ・授業改善委員会を設置し、学生にとってより良い教育環境で学べるようにする。

(特記事項)

- ・「自己点検・評価委員会」が設置されている。
- ・前期および後期の授業最終日に実行している。
また、結果を取りまとめ、各科目担当教員および担任に配布し、不適切な部分において改善する指導をしている。

[学校行事]

評価項目	評価
・定期的に校外学習を行い、動物業界の見聞を広めているか。	4
・定期的に学生同士・学生と教員のコミュニケーション能力を養っているか。	4
・定期的に学生主体による、自立と向上心を育て、社会地域へ貢献できる行事を行っているか。	4
・定期的に海外における動物業界の知識を学生に取り入れているか。	3

(課題)

- ・ぐーDOG 祭において、普段から利用していただいているモデル犬会員さんの参加が少なく感じられる。
- ・海外研修旅行の参加者が少ない。

(今後の改善方策)

- ・ぐーDOG 祭の参加者を増やすため、内容の充実・広報活動（事前にパンフレットを配布）にも力を入れる。
- ・海外研修旅行の旅行代金が高額なため、参加者が少ない。学生の負担とならないよう、積立という方法も考えて実施していく。

(特記事項)

- ・2年間の修業年限に4回の「校外学習」を設定している。すべてが動物業界のいろんな体験が得られるため、学生にとっても素晴らしい知識が学べると思われる。
- ・2年間の修業年限に4回の「レクリエーション」を設定している。1学年2学年と合同行動を取ることで、上下関係のコミュニケーションが図れる。
- ・ぐーDOG 祭は、主に日ごろ授業で使わせていただいているモデル犬会員さんのための感謝祭である。学生が主体となり、日ごろの感謝の意味を込め、会員様や地域の方に喜んでもらうための行事である。サービス精神を養うことで人間としての生き方も勉強できるよう、今後も続けていく。

[教員の向上]

評価項目	評価
・教員の研修計画が作成されているか。	4
・専門性や指導能力等の把握や、評価、維持、向上のための内部研修・研究を行っているか。	3
・専門性や指導力などの維持や向上のため、外部研修等へ派遣しているか。	3
・専門性や指導力などの維持や向上のための自己啓発への時間的・財政的な支援をしているか。	4
・非常勤講師との定期的な情報共有を図っているか。	4

(課題)

- ・更に本校学生の技術の向上を目指すため、動物業界との連携を図る必要がある。

- ・グルーミング実習において現在も行っているが、動物業界から講師を招き、講習会・外部研修を増やし、より充実した授業を実施したい。

(今後の改善方策)

- ・動物業界との関係を増やし、また本校の授業の見学等も増やしていく必要がある。
- ・夏季・冬季の休みを利用して、すべての教員が講習会や外部研修に参加できるように設定していく。

(特記事項)

- ・昨年度、平成 26 年度に開設する「動物看護師コース」に備え、本校トリマー教員に対し、「認定動物看護師」資格取得の指示を傳達し、全員が合格する結果を出した。
- ・グルーミング実習において、授業の中に教員が 4 名入るため実習授業による教員間の意識の統一を図り、頻繁に会議を開き、更に学生の技術が向上するよう、多くの教員の意見を取り入れている。
- ・グルーミング実習において、実習前の打ち合わせとして会議を実施している。
- ・平成 26 年度から「動物看護師コース」を設置するにあたり、本校の専任教員による動物病院でのインターンシップを予定している。
- ・専門性や技術の向上を図るため、財政的支援を行っている。本年度は「認定動物看護師受験料」の支援を行った。

[4] 学修成果

評価項目	評価
・学生の就職に関する目標を達成したか。	3
・学生の資格取得に対する目標を達成したか。	3
・学生の退学率の低減に関する目標を達成したか。	2
・学生の就職結果に関して、社会での活躍および評価を得ているか。	2

(課題)

- ・本校では、学生一人ひとりの人間性を見ながら、就職の指導を行っているため、目標を達成するというより、その学生にあった就職先への就職ができたか。また企業が求める人材を就職させることができたかを判断している。従って、学校目標としては就職率 100%を設定しているが、現時点では就職率は目標まで達していない。企業に適応した学生を送り出すように配慮し、就職先の確保も考えている。
また、進路部、担任、学生の関連をより強め、進路指導を強化する必要がある。
- ・資格取得において、学内の「MKGトリマー検定 C 級・B 級」学外の「認定動物看護師」「愛玩動物飼養管理士 2 級・1 級」「販売士検定 3 級」「日商簿記検定 3 級」「Microsoft Office Specialist word・Excel」等、幅広い分野の資格が取れるように設定しているが、すべての学生がすべての検定を合格するまでに至っていない。
- ・本校では、学生の退学率を 5 % 以下に設定しているが、退学者の多くが学校が嫌で辞めるのではなく、学費が払えないまたは、進路の方向が全く違ったという理由によるものである。

(今後の改善方策)

- ・学生皆が、就職を決めて就活に挑むが、やはり企業から見るとほしい人材はある。これらの行き違いで学生が気落ちすることがあるが、本校では、企業が求める人材を把握し、学生一人ひとりの特徴を把握しつつ、就職先を提案することで、より長く働いてくれると考えている。学生にも、求人側が求める基本的な社会常識を持つ人材、人間性の重要性を認識させる。
- ・資格取得に関しては学生の個人差もあるが、学園の教育理念にもあるように、学生一人ひとりの能力に見合

った授業を展開していくとともに、すべての教員でサポートしていく体制を確保する。

- ・退学者をゼロにしたいが、家庭の事情、金銭面、学生自身の目標が変わる等の理由となると、無理強いできないところがある。進み始めた目標を簡単に諦めず、今は無理かもしれないが今後またハサミを持つ気持ちになった時はいつでも相談に乗る体制を整えている。

(特記事項)

- ・学生のインターンシップ等において、卒業生が就職した先に訪問するが、そこでの評価は高く、我々教職員は、卒業生の頑張りをありがたく感謝している。卒業生が頑張ってくれているからこそ、本校に求人が来ると思われる。また、卒業生からも求人をいくつか頂く。本当にありがたいことである。

[5] 学生支援

評価項目	評価
・就職・進学指導に関する体制は整備されて、学生に対して有効に機能しているか。	3
・学生相談に関する体制は整備され、学生に対して有効に機能しているか。	3
・学生に対し、奨学金制度等の経済的支援があるか。	4
・学生に対し、定期的に健康診断を行っているか。	4
・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。	4
・保護者との相談・面談を行い、連携を図っているか。	4
・卒業生への支援体制が図られているか。	4

(課題)

- ・動物業界以外（一般）への就職を希望する学生が中にはいる。その学生に対しても就職を斡旋するが、職種の種類が少なく、現在は学生と一緒にインターネットで探したり、新聞に入っている求人を渡したり、ハローワークを勧めたりしているのが現状である。

(今後の改善方策)

- ・動物業界への就職はもちろんのこと、それ以外への就職希望者に対しても、求人数の獲得および就職試験および面接に対する一般知識を放課後等を利用して行っていきたい。

(特記事項)

- ・動物業界への就職においては、学校内データベースを作成しており、学生が卒業生の就職実績等を見ながら就職先を探ることができる。
また、動物業界以外（一般）による就職を希望する学生もいる。その学生に対しても、どの職に就きたいかを把握し、求人票を渡している。
- ・学生相談に関しては、本校では担任制を採ることでその体制は確保されている。また、担任以外の教員も学生と日頃から会話をすることで相談しやすい体制を作っている。
- ・本校では、学内奨学金として「本学園奨学金制度」、学外奨学金として「日本学生支援機構奨学金」「あしなが奨学金」「交通遺児奨学金」を利用できるよう設定している。
また、教育ローンとして、「日本政策金融公庫」「近畿労働金庫公庫（京都府）」「各民間銀行」「新聞奨学生制度」を利用できるよう設定している。
- ・学生の健康診断を年度初めに実施している。また、学生との個人面談をすることで学生の健康管理をしている。
- ・本校では、安心して学校生活を送れるよう「ナジック（株式会社学生情報センター）」「学生会館、食事付・マネージャー夫婦常駐（株式会社共立メンテナンス）に委託している。

- ・常に担任が保護者と連絡を取り対処できる体制を執っている。また、事務処理に関しては事務が保護者と連絡をとり対処している。
- ・卒業生に対しては、就職支援も行い、また卒業生用「セルフトリミングルーム」を設置し、いつでも学校に来れる体制を整えている。また、ぐーDOG新聞を作成し配布することで、技術相談会の案内をしたり、動物業界の情報や本校の活動を報告している。

[6] 教育環境

評価項目	評価
・教育上、必要な施設・設備が整備されているか。	3
・校外学習・インターンシップ・海外研修旅行において、十分な教育体制がとられているか。	2
・図書室・図書コーナー等があり、教育上必要な書籍を随時購入しているか。	4
・防災・防犯・非常時に対する体制が整備されているか。	4

(課題)

- ・施設で一部老朽化している所が出てきている。備品についても老朽化しているものを改善する必要がある。
- ・海外研修旅行において、旅行代金が高価となり、参加者が減ってきている。

(今後の改善方策)

- ・業者を入れて点検したところ、安全上問題がないと報告を受けたが、改修工事も検討していく。
(スタッフルーム・女子トイレ・ドッグランの改修工事……今年度事業計画案件)
備品に対しても、授業に支障が無いよう対処していく。
- ・旅行代金が学生の負担とならないよう、積立等の利用を図る。また、国内での研修も検討していく。

(特記事項)

- ・平成 26 年度開設「動物看護師コース」の最新設備・器機においては、動物病院の先生との連携を取りながら設置し準備をしている。また、動物看護師コースに向けた、現在の教室・施設の有効利用を図る。
- ・毎年、必要な参考図書・関連図書等の確認を行い、随時不足分を補っている。また、平成 26 年度から開講の「動物看護師コース」に向けた書籍を増やしていく。
- ・防災では防火責任者を配置、消火器等を完備し点検維持している。定期的に避難訓練も実施している。
防犯において、「テレビカメラ」と「防犯センサー」を設置している。
非常時等に備え、「AED」を校内に設置し、学生および地域住民の安全性を確保している。

[7] 学生の受入れ募集

評価項目	評価
・学生募集活動は適正に行われているか。	3
・教育の成果、資格取得の実績、就職実績等が、学生募集に貢献できたか。	4
・入学選考は、適正かつ公平な基準に則り、執り行われているか。	4
・学納金は妥当なものとなっているか。	4

(課題)

- ・学生一人ひとりを理解して受け入れ育てていく教育体制の充実を図る。

(今後の改善方策)

- ・学力の低い学生または障がい等を持つ学生の受け入れも考慮し、誰もが学べる学校になるよう学校の施設設備を整備し、放課後等を利用した教育も行う。

(特記事項)

- ・ 学生募集活動は、適正に行っている。また、担任制および少人数制を取り入れ、教職員一同が一丸となり親身なサポートを行っている
- ・ 在学生および卒業生が母校で本校の教育を伝えてくれることで、毎年同じ学校から学生を確保できており、大変喜ばしいことである。
- ・ 入学選考にあたり、AO入試・一般入試を実施し、入学基準に則り執行している。
- ・ 学納金は必要最小限にとどめ、学生に負担がかからないよう、学内・学外奨学金制度、教育ローンにも対応し、安心して学業に専念できる体制を整えている。

[8] 財務

評価項目	評価
・ 中長期的に財務基盤は安定しているか。	3
・ 予算は収支計画に従って適正に執行され、定期的に確認されているか。	4
・ 会計監査（内部・外部）が適正に行われているか。	4
・ 財務情報公開はできているか。	2

(課題)

- ・ 財務情報の閲覧には応じているが、ホームページ等による公開はしていない。

(今後の改善方策)

- ・ 本校ホームページによる専修学校法財務情報公開を実施する予定である。

(特記事項)

- ・ 現時点においては、収支のバランスが執れ、財務基盤も安定している。
- ・ 財務状況は、予算計画に基づき、適正に執行されている。
- ・ 財務監査においては、学園監事及び監査法人により厳正かつ適正に行われている。

[9] 法令等の遵守

評価項目	評価
・ 法令、専修学校設置基準等が遵守され、適正な学校運営を行っているか。	4
・ 個人情報保護法により、その対策がとられているか。	4
・ ハラスメントに関する規程を設け、学校として生活しやすい場の提供をしているか。	4
・ いじめ問題に対して、その対策が取られているか。	4
・ 体罰に対して、その対策が取られているか。	4

(課題)

- ・ 学園の勤務改善検討委員会・情報管理委員会・セクシュアルハラスメント防止対策委員会を定期的の実施し、対応していく。

(今後の改善方策)

(特記事項)

- ・ 関係法令を遵守し、適正な学校運営を行っている。
- ・ 学校が保有する個人情報の保護について、規定を定めて管理している。
- ・ セクシュアルハラスメント防止対策委員会を設置し組織化して、学生および教職員が安心して快適な生活を送れるよう環境を整えている。

- ・常に学生の異常を把握し、即対応できるよう、教職員一丸となって学生の情報を共有している。

[10] 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
・ペットショップ・動物病院・動物関連施設等での職場実習を行っているか。	4
・キャリア教育・ビジネス教育等を行っているか。	2
・コミュニケーション能力向上に向けた取り組みを行っているか。	2
・他の高等教育機関等との連携講座を行っているか。	2
・企業・地域・行政との連携を図っているか。	2
・目標・計画に基づく社会的活動（ボランティア活動等）を実施しているか。	3

(課題)

- ・動物関連の外部企業との連携を図っているが更に強化する。

(今後の改善方策)

- ・今以上の強化に向け、勉強会の場を設け、企業や業界担当者との親睦を図る。

(特記事項)

- ・将来、社会的・職業的に自立し、社会の中での自分の役割を見つけ果たすことができる人間に育てるため、それらを学べるカリキュラムを編成している。
- ・本校の学園訓に則り、グルーミング実習においても、能力や技術だけを身に付けるのではなく、グループ作業を取り入れることで、互助協力して完成させる授業を展開している。
- ・京都廣学館高等学校・つくば開成高等学校の協力を得て、本校の動物に関する授業を公開している。
- ・学生のインターンシップや見学を通して、就職やアルバイトの求人も得、企業側から見て職場に就くための本校に不足することを学び、それをカリキュラムに反映することにより、本校の教育を更に向上させることができている。
- ・ボランティア活動として、京都市家庭動物相談所に保護された犬をトータルグルーミングすることで、命の大切さと世の中が人間と動物の共存で成り立っている現実を理解し、人間が生きていくための知識および方法を体験させることにより、学生自身が自分の将来をも考えられる教育を行っている。

以上

京都動物専門学校

平成 25 年度 自己点検・評価委員会

委員長 中本 敦史 (副校長)

委員 盛 光明 (校長)

平尾 克英 (事務長)



平成24年度 事業報告書

I 学校の概要

京都動物専門学校

〒612-0068 京都市伏見区桃山福島太夫西町 6 番地

1. 学校の概要

昭和 50. 3. 31	学校法人南京都学園 認可
平成 8. 11. 15	京都デザイン・ビジネスカレッジ 工業専門課程 商業実務専門課程 服飾・家政専門課程 設置認可
平成 14. 4. 1	京都デザイン・ビジネスカレッジ を 京都情報ビジネス住環境専門学校 に校名変更
平成 21. 4. 1	京都情報ビジネス住環境専門学校 を 京都動物専門学校 に校名変更

2. 教育理念

人間の能力は生まれつきのものではなく

その人の努力によって開発され、無限に伸ばされる

(昭和 28 年 3 月 18 日)

3. 学園訓

本学園は、学生・生徒の守るべき学園訓を愛・信・敬とした。

愛・信・敬

(昭和 62 年 4 月)

4. 課程・学科の入学定員、学生・生徒数の状況

平成 24 年 5 月 1 日現在

学 校 名	課 程	学 科 名	学則定員	1 年	2 年	合計
京都動物専門学校	商業実務専門	ペットビジネス学科	160	64	92	156

5. 教職員

平成24年5月1日現在

	専任 教員	兼任 教員	専任 助手	兼任 助手	専任 職員	兼任 職員	合計
京都動物専門学校	10	8	1	6	3	3	31

II 事業の概要

1. 京都動物専門学校

1) 平成24年度の事業の概要

① 概要

ペットビジネス学科

動物コース立ち上げ以来、SKILL・LOVE・BUSINESSのローガンのもと9年が経過した。8期生までの卒業生も輩出し、教育内容や教育施設とも徐々に充実してきた。実習授業がメインのため、グルーミング実習担当教員の配置、モデル犬会員システムの運営方法に若干の問題はあるが、次年度の課題として対応していく。

また、本校は、平成21年度から京都動物専門学校へと校名変更し、この4年間で、京都・滋賀地域での確固たる地位を築きつつある。今後はさらに、業界との結びつきを強くし、阪神地区への活動も展開していきたい。

② 学校行事

月	行事	月	行事
4	講師会 入学式 オリエンテーション 健康診断 春のレクリエーション	10	秋のレクリエーション 愛玩動物飼養管理士講習会
		11	校外学習 簿記検定
		12	インターナショナル'ツグ'ショー見学 愛玩動物飼養管理士試験
5	校外学習 避難訓練	1	学生トリミング競技会
6	海外研修旅行（2年任意）	2	後期試験 追・再試験 販売士検定 MKGトリマー検定
7	販売士検定		
8	前期試験 インターンシップ（2年） MKGトリマー検定再試	3	インターンシップ（1年） 卒業式
9	ぐーDOG祭		

2) 平成 24 年度の主な事業の目標、進捗状況

① 教育内容

1.教育内容の充実

- ・オーストラリアで研修旅行を実施し、海外のペット事情やトリミング技法の違い等を学ぶ。
- ・学生競技会を外部会場を借りて実施予定であったが、諸般の事情により本年度も1号館3階で実施し、おおいに盛り上がった。
- ・新カリキュラムの導入・実施に向けての準備。
- ・研究授業を年1回、1科目で実施し、教員力の向上を図る。
- ・学生による授業評価アンケートを全科目において、前後期2回実施。
- ・教員研修会（トリミング技術についてなど）を年4回実施。
- ・モデル犬の必要頭数を確保。

2.教育支援の強化

- ・担任制の充実のため学生による担任評価アンケートを年2回実施。
- ・看護系やグルーミング実習用の器具、機器を適時購入。
- ・学生と担任の接触回数に重点を置き、個別面談を定期的に実施。

3.進路指導の充実

- ・インターンシップ研修の充実。
- ・個別面談で、履歴書記入指導、面接指導を実施。

4.資格取得状況

- ・MKG トリマー検定
- ・認定動物看護師試験
- ・愛玩動物飼養管理士
- ・販売士検定
- ・Microsoft Office Specialist Word2003
- ・Microsoft Office Specialist Excel2003

② 施設、設備の整備

- ・23年度新入生の増加にともない、グルーミング実習室をあと1教室整備するため、犬預かり室を改修し、実習室とする。また、それにともない従来の学生談話室（木造）を改修し、犬預かり室とする。
- ・新カリキュラムに伴い看護実習室（セルフトリミングルーム2F）の水回りを改修した。

③ 学生募集

1.募集活動

入学者目標を80名と定め、下記のような募集活動を行った。

- ・京都府、滋賀県の高等学校を中心に頻度の高い学校訪問。
- ・重点地域の会場、校内ガイダンスに積極的に参加。
- ・体験入学会、学校見学などへの動員からの出願率を設定し、DM、進学情報誌、ホームページ等での広報活動の展開を図った。
- ・マスコミへのパブリシティーなど、PR戦略の展開。
- ・動物関連の各種イベントへ参加し、知名度の向上を図った。
- ・AO入試への積極的な誘導を行った。

2.入試制度改革

募集エリアや体験内容の見直しをはかる必要がある。

校内ガイダンスは1分野1校の参加のため、校内ガイダンスへの参加数を見直す必要がある。

④ 自己点検評価の実施

- ・評価委員会が年度末3月に平成24年度の総括を兼ねた報告書を作成。

Ⅲ 財務の状況

(1) 資金収支計算書

平成24年4月1日から

平成25年3月31日まで

京都動物専門学校

単位：千円

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	163,900	166,000	△ 2,100
手数料収入	2,223	3,351	△ 1,128
寄付金収入	1,000	600	400
補助金収入	1,030	2,367	△ 1,337
その他の収入	603	1,059	△ 456
借入金収入	18,000	18,000	0
収入の部合計	186,756	191,377	△ 4,621
支出の部			
人件費支出	88,747	90,914	△ 2,167
教育研究経費支出	27,251	25,616	1,635
管理経費支出	22,948	28,998	△ 6,050
借入金等利息支出	959	813	146
借入金等返済支出	25,449	25,449	0
施設関係支出	0	150	△ 150
設備関係支出	5,220	4,923	297
支出の部合計	170,574	176,863	△ 6,289

(2) 消費収支計算書

平成 24 年 4 月 1 日から

平成 25 年 3 月 31 日まで

京都動物専門学校

単位:千円

消費収入の部			
科目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	163,900	166,000	△ 2,100
手数料	2,223	3,351	△ 1,128
寄付金	1,000	600	400
補助金	1,030	2,367	△ 1,337
その他の収入	603	△ 1,503	2,106
帰属収入合計	168,756	170,815	△ 2,059
基本金組入額合計	△ 11,020	△ 11,589	569
消費収入の部合計	157,736	159,226	△ 1,490
消費支出の部			
人件費	91,417	90,914	503
教育研究経費	45,051	36,158	8,893
管理経費	23,348	29,171	△ 5,823
借入金等利息	959	813	146
資産処分差額	0	0	0
消費支出の部合計	160,775	157,056	3,719

貸借対照表

学校法人南京都学園

平成 25 年 3 月 31 日

単位：千円

資産の部	
科目	本年度末
固定資産	7,514,799
有形固定資産	7,311,261
その他の固定資産	203,538
流動資産	262,153
資産の部合計	7,776,952
負債の部	
科目	本年度末
固定負債	432,789
流動負債	638,071
負債の部合計	1,070,860
基本金の部	
科目	本年度末
基本金の部合計	9,929,440
消費収支差額の部	
科目	本年度末
消費収支差額の部合計	△ 3,223,348
科目	本年度末
負債の部、基本金の部消費収支差額の部合計	7,776,952

財 産 目 録

学校法人南京都学園

単位：千円

科 目	平成 24 年度末	
1 資産額		
1.基本財産		
(1)土地		
校地	69,742.68 m ²	5,763,883
(2)建物		
校舎	17,442.67 m ²	1,356,060
(3)構築物		105,554
(4)教育用機器備品	5,352 点	31,103
(5)その他の機器備品	649 点	10,634
(6)図書	27,279 冊	43,574
(7)車輛		453
(8)退職給与引当特定資産		196,251
(9)その他の固定資産		7,287
2.運用財産		262,153
	合 計	7,776,952
2 負債額		
1.固定負債		432,789
2.流動負債		638,071
	合 計	1,070,860